

◆SA 歌体操委員会

SA 連協歌まつりを終えて

歌体操担当 梶山良子

師走とも思えぬ暖かさの12月14日午後1時、老人総合センター大教室は、笑顔一杯のユニホーム姿で埋まりました。

センターの川西所長様、SA養成講座担当の藤原様、連協本部の窪田理事長、三田、北原副理事長各氏のご来臨をいただき、「SA 連協歌まつり」の開幕です。

開会セレモニーでのご祝辞では、お三方から交々、「史上類のない高齢社会を迎え、それぞれが健康に生きる事がなにより肝要であり、こうしたことを踏まえ、歌体操ボランティアの重要性が益々高まると思います。本日の歌体操まつりをお祝いしますとともに、今後の活躍を大いに期待いたします」とのお言葉を頂戴しました。

105人の参加者全員で椅子を片寄せ、体操のできるスペースをつくり、第2部のアトラクションに入りました。プログラムをバラエティ豊かにするため、11期から19期までの期別の班と大阪市・高槻市・茨木市・豊中市・池田市・守口市門真市など地域別の班を散りばめ、人数の足りないところはメンバーを融通しあって、元気一杯の体操を繰りひろげました。拍手の大きかったのは、赤と黄色の手袋も可愛い19期生の「サザエさん」。毎月の歌体操サークルでの熱心な練習がそのまま現れていて、終了後の活躍が目に見えるような思いがいたしました。また7地域の皆さんは、それぞれ10人のメンバーを揃え、ユーモラスな体操や清新な体操を発表して下さいました。今回の催しを教室の枠にとどめず、広く門戸を開いたのは大正解であったと思います。

川西所長様、窪田理事長はじめ来賓の方々も、プログラムの最後まで一緒に体操して

下さり、三田副理事長の閉会のあいさつの後、腕を組み合って「今日の日はさようなら」を歌って下さいました。文字通り錦上花をそえていただきました暖かいお心遣いに、あらためて心より御礼申し上げます。

久保理事長の並々ならぬ意欲と英断で、SA連協歌体操教室が産声を上げたのは、平成16年の春でありました。最初の頃はいろんな

面で流動的でありましたが、17年5月の万博公園イベント出演を期に、メニューも豊かになり、参加者も増え、今では2階の運動室に笑顔の満ちあふれる盛況であります。

今回の催しの実行委員長を担当させていただいた私は、これからも「マニュアル重視」をバックボーンに、全力を注いで多くの皆さんの熱意に応えて参りたいと、思いを新たにいたしております。ご参加いただいた大勢の皆様、ご協力本当に有難うございました。